

課題研究

[実験] 博士課程 第1～4学年
必修 10単位

《担当者名》 全指導教員

【授業概要】

専門分野にかかわる特定の研究課題を設定して、各研究分野の特論・演習・実習で修得した知識・技能を活かして研究を実践し、その成果を博士論文としてまとめる。

【学習目標】

・各研究分野の特論・演習・実習で修得した知識・技能を活かして課題研究を実践し、その成果を博士論文として作成できる。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容・方法など	担当者
1 ～ 150	課題研究	<p>◎基盤薬学系分野</p> <ul style="list-style-type: none">・薬理活性を有する複素環化合物の探索合成（小田和明）・新規合成反応の開発を基盤とする生理活性アルカロイドの合成（石倉稔）・薬用植物の二次代謝化合物の生成メカニズムと機能解析（高上馬希重）・生体プローブの開発と臨床診断・治療への応用（大倉一枝）・G蛋白質共役型受容体の機能発現構造の解析とその制御物質のデザイン（波多江典之）・脂質体内動態の解明と病態解析への応用（黒澤隆夫）・生体内微量成分・医薬品の高性能分析の開発と臨床化学への応用（村井毅）・銀杏中毒に関する研究（和田啓爾）・生活習慣病の分子機構解明を基盤とした予防薬学研究（増田園子） <p>◎臨床薬学系分野</p> <ul style="list-style-type: none">・均一蛍光濃縮法（HAFCOM）の確立と応用に関する基礎研究（青木隆）・ウイルス感染症の制御に関する研究（岡崎克則）・生理活性アミンの病態生理学的役割の解明（平藤雅彦）・骨格筋細胞の内分泌機能の可能性についての基礎的検討（飯塚健治）・中枢神経細胞の電氣的活動に及ぼす薬物作用に関する検討（島村佳一）・種々疾患時における薬物動態変動要因の解析（齊藤浩司）・医薬品の適正使用とTDMに関する研究（唯野貢司）・高齢患者への安全な薬物療法に関する研究（小林道也）	全指導教員

【評価方法】

研究態度及び課題研究到達度により総合的に評価する。

【教科書】

【参考書】

【学習の準備】